

目 次
「臨床薬理」 第 42 巻 第 2 号 2011 年 3 月

フォーラム

医療用医薬品の添付文書における記載順序の妥当性と承認条件記載認識度に関する医師・薬剤師を対象としたアンケート調査……………岩瀬万里子ほか… 33

REPORT

2010 年度日本臨床薬理学会海外研修員報告書—その 1—……………櫻庭 篤… 41
2009 年度日本臨床薬理学会海外研修員報告書—その 2—……………大原 貴裕… 45

第 31 回 日本臨床薬理学会年会記録

目次…………… 49
シンポジウム 16 国際共同治験における用量差とエビデンス…………… 53
シンポジウム 17 ここまでわかった口腔細菌による全身疾患：最新の研究と臨床知見…………… 63
シンポジウム 20 医学と薬学教育のコア・カリキュラムにおける臨床薬理学教育を点検する…………… 73
シンポジウム 22 治験の空洞化を防ぐための早期探索的臨床試験の推進—First-in-man と POC—…………… 83
シンポジウム 24 新医薬品開発をめぐる課題…………… 93
シンポジウム 25 時間疾患の現状…………… 103

議事録

第 13 回理事会/第 4 回定時社員総会/第 14 回理事会/第 3 回総会…………… 41E

医薬品情報

医薬品・医療機器等安全性情報 No. 276, 277…………… 67E

投稿規定…………… 71E

おしらせ

第 32 回日本臨床薬理学会年会予告 (3) …………… 73E
第 14 回臨床薬理専門医試験要項, 第 11 回認定薬剤師試験要項…………… 74E
認定 CRC 認定の更新手続き…………… 78E
編集委員会からのお知らせ (電子投稿システムの運用開始) 他…………… 79E

PROCEEDINGS

第31回 日本臨床薬理学会年会記録

日時 2010年12月1日(水)~12月3日(金)

場所 国立京都国際会館(京都)

会長 乾 賢一(京都大学名誉教授, 京都薬科大学学長)

シンポジウム16: 国際共同治験における用量差とエビデンス (座長) 高田寛治, 永井将弘

- 座長のまとめ 高田 寛治ほか... 53
1. 日米欧における臨床用量の差異と血中薬物動態 奥田 恵理ほか... 55
 2. 国際共同治験における用量差とエビデンス 中 村 哲 也... 57
 3. 薬剤承認用量, 使用量の国際的相違 永 井 将 弘... 59
 4. 国際共同治験における用量設定について —審査の立場から— 品 川 香... 61

シンポジウム17: ここまでわかった口腔細菌による全身疾患:

最新の研究と臨床知見 (座長) 梅村和夫, 和田孝一郎

- 座長のまとめ 梅村 和夫ほか... 63
1. 歯周病と4つの全身疾患 天野 敦雄ほか... 65
 2. 非アルコール性脂肪肝炎発症のリスクファクターとしての口腔細菌 和田孝一郎ほか... 67
 3. 新規脳卒中誘発口腔内細菌の発見とそのメカニズム解明 外村 和也ほか... 69
 4. 脳卒中患者における特定口腔細菌の検出と病態の関連性 田中篤太郎ほか... 71

シンポジウム20: 医学と薬学教育のコア・カリキュラムにおける

臨床薬理学教育を点検する (座長) 越前宏俊, 長谷川純一

- 座長のまとめ 越前 宏俊ほか... 73
1. 薬物治療に関する医学教育の現状と今後 藤 村 昭 夫... 75
 2. 薬物治療個別化の教育: 薬学部から 鈴 木 孝... 77
 3. 医学部における医薬品開発の教育 大 橋 京 一... 79
 4. 薬学教育のコア・カリキュラムにおける臨床薬理学を点検する 渡 邊 誠... 81

シンポジウム22: 治験の空洞化を防ぐための早期探索的臨床試験の推進

—First-in-man と POC— (座長) 加藤隆一, 佐藤裕史

1. はじめに 加藤 隆一ほか... 83
2. 治験の空洞化を防ぐための早期探索的臨床試験の推進 —企業の立場から— 稲 垣 治... 85
3. 治験の空洞化を防ぐための早期探索的臨床試験の推進 —外資系企業の立場から— 岩 崎 甫... 87
4. 治験の空洞化を防ぐための早期探索的臨床試験の推進: アカデミアの役割 渡 邊 裕 司... 89
5. レギュラトリーサイエンスの立場から 山 田 雅 信... 91

シンポジウム 24：新医薬品開発をめぐる課題	(座長) 豊島 聰, 山田博章	
座長のまとめ	豊島 聰ほか	93
1. 未承認薬等の開発促進に対する行政の取り組み		
—「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」と		
医薬品医療機器総合機構の役割について—	關 野 一 石	95
2. 国際共同治験に係わる承認審査・治験相談の現状	安 藤 友 紀	97
3. 民族差に関する日中韓共同研究の現状	宇 山 佳 明	99
4. これからの製造販売後安全対策	佐 藤 淳 子	101
シンポジウム 25：時間疾患の現状	(座長) 藤村昭夫, 岡村 均	
1. 時間治療-総論：生体の時計システムと時間治療	岡 村 均	103
2. 体内時計システムを利用した薬物誘発性精神疾患予測法の構築	牛島健太郎ほか	105
3. サーカディアンリズムと循環器疾患	荻 尾 七 臣	107
4. 関節リウマチにおける病態の概日リズムと時間薬物療法	藤 秀 人	109